

平成29年度 学校自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価	
1 確かな学力の育成	アクティブラーニングに関する研修に全教科の教員を派遣するとともに、ICT機器を活用した「学びの文化祭 in Yonago」を開催して、授業改善研究を推進した。	学力の向上	組織的、計画的に授業改善を推進する	ICT機器の活用 「学びの文化祭 in Yonago」によるアクティブラーニングの推進 授業公開週間における授業公開の促進と授業評価アンケートの活用	B	・ICT機器使用簿実績から各教科でICT機器活用が促進されている。 ・3回目となる「学びの文化祭 in Yonago」でICT機器の活用とアクティブラーニングを推進する。		
			系列の特色化と資格取得を促進する	各系列ごとの学校独自事業の充実 高度資格取得へ向けた受験指導の充実				B
		思考力、判断力、表現力の更なる向上	テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める	「RESAS」を活用した米子市中心市街地活性化計画の構築と地方創生アイデアコンテストへの応募	B	・「RESAS」を活用した米子市中心市街地活性化計画を策定し、地方創生アイデアコンテストへの応募に向け取り組みを進める共に、高校生ビジネスグランプリに応募した。		
2 豊かな人間性の育成	遅刻者数は対前年度65%減少した。「無言掃除」や届出の徹底を含め、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。	基本的生活習慣の定着	遅刻者数1割減を目指す	遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化	B	・9月末まで対前年度比45%減。		
			規範意識の向上と掃除の徹底	米子高校生としての自覚ある行動の啓発(問題行動ゼロ) 掃除時間の明確化による「無言掃除」の徹底	C			・問題行動が発生した。 ・掃除は真面目に取り組んでいるが「無言掃除」は徹底できていない。
		生徒の主体的活動の推進 (国際交流・環境保全活動・部活動)	生徒の各種活動への積極的参加を促す	生徒会執行部による各種自主的活動の充実	総合学習における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築 学習成果発表会に向けた生徒支援の充実 教員研修と情報交換会を反映した個別受験指導の充実 看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	B	・生徒会活動においては学校行事のみならず清掃活動、マナーアップ運動、挨拶運動、交通安全運動など、多方面で積極的に活動した。 ・韓国造形芸術高校との交流が諸事情により中止となった。 ・TEAS活動は環境委員がゴミの計量など地道に取り組んでいる。	
				部活指導の充実				
アメリカSTA高校・韓国造形芸術高校への交流派遣								
TEAS活動の推進、環境講演会の実施								
3 自己実現のための進路指導の充実	産業社会と人間・ブレテーマ学習・テーマ学習が進路実現に反映されている。	キャリア教育の発展	教員の指導力向上と外部指導者の活用	総合学習における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築 学習成果発表会に向けた生徒支援の充実	B	・進路講演会や社会人講話などで多方面の外部指導者を活用した。 ・学習成果発表会に向けての準備が進められている。		
		進路指導の充実	生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる	教員研修と情報交換会を反映した個別受験指導の充実 看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	B	・進路情報交換会、職員研修会を実施し、個別受験指導の充実を図った。 ・新たに看護の職場体験事業を実施した。		
4 地域との連携による学校づくり	地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。	地域のニーズに応じた地域貢献	文化芸術活動の拠点化を通じ、地域のニーズに積極的に対応	漫研・ダンス・演劇・吹奏楽等の各種イベントの開催 「花壇用草花植栽活動」による地域貢献の推進	A	・各種イベントは実施に向け準備中である。 ・植栽活動は米子市文化ホール、JR米子駅、公民館などへの地域貢献を果たしている。		
			積極的な社会参画と情報発信	社会につながる教育活動を推進する				「高校生出前キャリアガイダンス」による情報発信 総合美術展の開催による情報発信

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要